

海外救援金にご支援いただいた皆様へ



きもちのしるし

2018-2019

海外救援活動報告書



©日本赤十字社

皆さまのあたたかいご協力に 心より感謝申し上げます。

赤十字は皆さまのご支援のもと、
災害で苦しむ世界中の人々の救援活動を行っています。

日本赤十字社が皆さまからお預かりした海外救援金を活用して取り組んだ
2018年から2019年の救援活動について報告いたします。

2018-2019

海外救援金の主な支援先



MIDDLE EAST

中東諸国

(イエメン・イラク・シリア・パレスチナ・ヨルダン・レバノン)

2

BANGLADESH

バングラデシュ

1

MOZAMBIQUE

モザンビーク

3

INDONESIA

インドネシア

(スラウェシ島・ロンボク島)

4

想う「きもち」は、海を越える。

1

バングラデシュ南部 避難民支援



2

中東 人道危機被災者支援



3

モザンビーク サイクロン被災者救援事業



4

インドネシア 地震被災者救援事業





©日本赤十字社

2017年8月25日にミャンマー・ラカイン州で発生した暴力行為から逃れ、隣国バングラデシュに避難した人々は70万人以上。以前からの避難民20万人とあわせ、アジアで最大の人道危機となっています。2年がたった今も日本赤十字社は支援を続けています。

バングラデシュ赤新月社への支援として医療チームを派遣し、診療活動やこころのケアを行いました。避難の長期化を見据え、今後は地元の医療者やボランティアが主体的に活動できるよう、彼らへの指導や育成に力を入れています。

2019年10月31日現在まで (受付期間: ~2021年3月31日) **7,238万3,347円**

派遣した医療者数 **154人** | 診察した患者数 **7万8,000人以上** | こころのケアを提供した人数 **6万8,000人以上**

※詳細は裏面のQRコードからウェブサイトへ

※国際赤十字では、政治的・民族的背景および避難されている方々の多様性に配慮し、「ロビンギヤ」という表現を使用しないこととしています。



©日本赤十字社

ありがとうのこえ

「将来は看護師さんに。」

キスモタラさん (写真左端)

ボランティア活動に携わったおかげで将来は看護師になりたいと思うようになりました。専門知識を持った人たちと一緒に活動することで知識がたくさん身につきました。皆さんに感謝を伝えたいです。たくさんのサポートをしてくれて本当に嬉しいです。ありがとうございます。



©日本赤十字社

紛争が絶えない中東地域。シリアやイエメンでは国内紛争が長期化、複雑化し、「第二次世界大戦以降最悪の状況」と言われています。この状況を受け、日本赤十字社では2015年よりイエメン、イラク、シリア、パレスチナ、ヨルダン、レバノンで人道支援を行っています。

2019年にはシリア難民向けの水衛生施設の設置や学校の環境整備、難民受入れコミュニティを対象とした健康増進キャンペーンの実施、パレスチナ難民向けの病院への技術支援等を行いました。難民や地元コミュニティの方々から感謝の声が届いています。

2019年10月31日現在まで (受付期間: ~2021年3月31日) **1億9,596万1,783円**



※詳細は裏面のQRコードからウェブサイトへ



©日本赤十字社

ありがとうのこえ

「赤十字の支援に感謝。」

アフマドさん一家

5年前にシリアから逃れてレバノンにきました。1年前に現在の非公認居住地に住み始めた時には、不衛生な共用トイレが野外で排泄をしていました。これにより衛生面の懸念はもとより、土地所有者との関係が悪化しました。現在は、赤十字の支援により自分の家族用のトイレが設置され、自分たちでトイレの掃除と管理しており、土地所有者との関係も良くなりました。



©IFRC

2019年3月15日、南部アフリカのモザンビーク共和国を大型サイクロンが直撃。最大風速160km/h以上の風と豪雨の影響で150万人以上が被災。600人以上が亡くなり、14万人以上が住む場所を失いました。4月25日には新たなサイクロンがモザンビーク北部を襲い、40万人以上が被災。日本赤十字社では国際的なネットワークを活かして被災者救援活動を行いました。

(受付期間: ~2019年6月30日まで) **2,204万5,916円** ※海外救援金の受付は終了しました。

ありがとうのこえ 「自分の気持ちを話せて楽になりました。」 マリアさん

サイクロンの後、家が崩れる悪夢を何度も見て夜も眠ることができず、心が落ち着きませんでした。赤十字のこころのケアスタッフに不安な気持ちを話すことで、自分自身の気持ちを整理することができ、感謝しています。



©日本赤十字社

インドネシア中部のロンボク島では2018年7月から8月にかけてM6.0以上の地震が短期間に3回連続で発生し、スラウェシ島では9月28日にM7.4の地震と津波が発生。2つの地震の死者は合計4,500名以上、避難者は60万人以上、家屋の損壊は26万棟にものぼりました。日本赤十字社は発災直後から被害の大きかった地域に、医師、看護師を派遣し救援活動を行ったほか、診療所の開設等の支援を行いました。

(受付期間: ~2018年11月30日まで) **1億7,694万4,607円** ※海外救援金の受付は終了しました。

ありがとうのこえ 「よく眠れるようになったよ。ありがとう。」 サリムさん

地震によって住む家が被害を受け、右膝を負傷しました。2019年、赤十字が新しく建設した仮設住宅に移り住み安心して眠ることができるようになりました。

世界には、災害によって住む家を奪われた人々、
紛争により生まれた場所を離れなくてはならない人々、
医療体制、衛生管理が不十分なため、
簡単な病気で命を落とす人々がいます。



©IFRC

これからも、災害や病気・紛争で
苦しむ人を救いつづけるために

皆さまからの
かさねてのご協力を
お願いします

ご協力方法については裏面をご覧ください

ご協力方法

同封の
払込票が
使えます



郵便局・ゆうちょ銀行

お近くの郵便局窓口から
手数料無料でご寄付いただけます。



インターネット

スマートフォンやパソコンから、ご寄付いただけます。
また、銀行振込の振込先、クレジットカードでの
振込方法、事業実績等につきましてもQRコード
からご確認ください。

ウェブサイトへ

バングラデシュ南部
避難民救援金



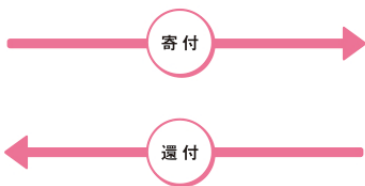
中東人道危機
救援金



税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告をすることで、
税制上の優遇措置を受けられます

個人の場合



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



税務署

所得控除の計算式

A: 年間所得総額 - B: (寄付金額 - 2,000円) = C: 所得税課税対象額

※ただし、対象となる寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

[お問合せ先]

日本赤十字社

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 活動に関するお問合せ: TEL 03-3437-7088
寄付に関するお問合せ: TEL 03-3437-7081

<http://www.jrc.or.jp/>

日本赤十字社

検索